

はじめに

沖縄本島地域、奄美群島には、トカラ列島以北とは異なった特徴のある星名伝承が伝えられている。本報告では、1979年3月～2020年に実施した文献・アンケート調査及び現地フィールド調査をもとに、沖縄本島地域、奄美群島のプレアデス星団、オリオン座三つ星(あるいは小三つ星と η 星を含めた杵の形の配列)、北斗七星、明けの明星、宵の明星等の多様で豊かな星名伝承、さらには、トカラ列島以北及び宮古・八重山諸島を含んだ南西諸島全域における星名伝承を分析・考察し、全体的特徴、傾向について明らかにしていきたい。

I 沖縄本島地域の星名伝承に関する天文民俗学的データ

1 プレアデス星団

(1) 沖縄本島

① 糸満市(1979年、2019年調査)

・糸満市糸満…ムリブシ、ブリブシ ・糸満市喜屋武…ブリブシ

●1979年調査

糸満市では、薄明の終わる頃、頭の上に桶をのせて、ムリブシが見える2月から5月頃まで突風が吹くと伝えられていた。1月まではムリブシの高度が高く桶に隠れて見えない。星の高度が一定以下にあることを知るために、桶を用いた。

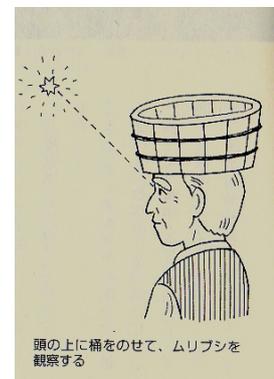
●TAMさん、昭和6年生まれ、糸満出身(2019年調査)

ぶりぶし 旧(旧暦)4月夜明けに見える。フサアギ(フサ星アギ上ギ) ちよつと見える。明け方。シングワチフサアギ(旧4月の風)。4月、5月のフシアギは、シングワチ(シンガチ)フシアギとよぶ。台湾坊主(台風)の季節になり、急に風が強くなる。(漁に出るのに注意する)

5月(旧暦5月)、ブリブシ、あがると2時間でよあける。フサアギ(フシアギとも聞こえる)の2時間後に夜が明ける。フサアギ 星上ギ ほしあがり(のこと)

●糸満市喜屋武(きゃん)漁港、MIMさん、昭和10年生まれ(本当は9年)、糸満喜屋武出身(2019年調査)

・ブリブシ 固まった集まった星(友利健氏の案内。宮地竹史氏、福里美奈子氏同行)



②沖縄本島読谷村(1983年アンケート調査)

- ・中頭郡読谷村…ブリブシ、ブルブシ、ムリブサー

③沖縄本島本部町(2019年調査)

- ・本部町浜崎漁港…ブルブシ ・本部町渡久地港…ブリブシ

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

●本部町渡久地港、HISさん、昭和3生まれ、本部町出身

かたまっている。ブリブシ。いまでも天気の良いとき見える。

④沖縄本島大宜見村根路銘(2019年調査)

- ・大宜見村根路銘…ムリブシ (友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

この場合、プレアデス星団を意味すると断定できない。

●国頭郡大宜見村根路銘(2019年調査)

- ・MIHさん、昭和6年生まれ、根路銘出身…ムルブシ、たくさんある星をムルブシ、いっぱい。

・昭和12年生まれ、根路銘出身…ムルブシ。天の川をいうのでは。星がたくさんむらがっている。天の川のこと、そのことをムルブシ。(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

⑤国頭郡沖縄本島国頭村辺土名漁港(2019年調査)

- ・国頭村辺土名漁港…ブリブシ

●国頭村辺土名漁港 昭和19年生まれ、石川(現 うるま市石川出身、YAGさん)(24歳のとき、辺土名に)

- ・ブリブシ、天の川だろう。星がいっぱいむれてる。(即ちプレアデス星団と認識していない)

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

⑥沖縄本島国頭郡国頭村安田(2020年調査)

- ・国頭村安田…ブリブシ

●国頭村安田MIHさん、昭和9年生まれ 国頭村安田出身

ブリブシ、たくさんあるの、大きい。(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

⑦国頭郡国頭村安波(2020年調査)

- ・国頭村安波…ブリブシ

●MISさん、昭和19年生まれ 安波出身(国頭村役場上原さんの紹介)

ブリブシあがる、朝、やがてユーカーあがった。ユーカーの後、あかくなる

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

⑧国頭郡宜野座村漢那漁港(2020年調査)

・宜野座村漢那漁港…ブリブシ

●宜野座村漢那漁港 NASさん(昭和13年生まれ、糸満から来た)

ブリブシという(北尾注 テンヌムリブシ…と歌を思い出したが、星名は「ブリブシ」)

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

⑨うるま市石川漁港(2020年調査)

・うるま市石川漁港…ブリブシ

●うるま市石川漁港 ISKさん(昭和7年生まれ、糸満前里出身、終戦後は石川)

ブリブシは言った。たくさんかたまっている。ブリブシ。(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

(2)伊江島(2019年調査)

・国頭郡伊江村(伊江島)具志漁港…ブリブシ (友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

(3)渡名喜島(1984年アンケート調査)

・島尻郡渡名喜村…ブルムン(北尾AC)

●渡名喜村の伝承

群れをなしていることを「ブリ」と言う方言から。群れている星という意味で、ブルムン(群れ物)と呼んでいる。ブルムンで夜明けの近いことを知り、若い男女も、その頃、夜遊びをやめて帰宅した。このブルムンが東の空にのぼると、魚釣り星(さそり座)が西の方に隠れてしまう、と言う。(北尾AC)

(4)渡嘉敷島(1984年アンケート調査)

・島尻郡渡嘉敷村…ブリブシ (北尾AC)

●フサアーギ(星上ギ)

ブリブシ、ミツブシ(オリオン座三つ星)、ユウアカシブシ(明けの明星、金星等の明るい星)の3つが夜明けの明星となる季節に(夜明けにのぼる季節に)、決まって、高波と東向きの強風が吹くので、季節風フサアーギと呼んでいる。その季節風が終わると台風期にはいる。(北尾AC)

(5)浜比嘉島(2019年調査)

・うるま市勝連比嘉兼久…ムルブシ ・うるま市勝連浜(浮原島出身)…ムリブシ、ムルブシ

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

沖縄県糸満市にて金城誠氏(元、水産高校教諭。(昭和23年生まれ)より、「浜比嘉のムルブシ(群れ星)のフシアゲ。ニングワチ 旧2月。シングワチフシアゲ 旧4月の荒れる風。フシアゲはフシ(星

が)アゲ(上がる)で、日没後の西の空ではなく東の空。桶でニングワチ(2月の強風)を知ったのは夕方
の西の空で、浜比嘉で聞いた」と聞く。

(6)久米島(1984年調査)

・島尻郡仲里村儀間(現 久米島町)…ブリブシ 真泊(現 久米島町)…ブリブシ

具志川村鳥島(現 久米島町)…ブリブシ

●フシアギ(星上ギ)(仲里村真泊(現 久米島町))

4月にフシアギといって突風がある。この突風が吹いた後に夜明けにブリブシがあがる。フシアギが
吹かないとブリブシが夜明けにあがらない。ブリブシが見える頃からイカの時季になってくる。(北尾C)

(7)栗国島(2020年調査)

・島尻郡栗国村浜…ブリブシ、ブリムン ・島尻郡栗国村アギ集落…ブリブシ、ブリムン

●栗国村浜SSさん、昭和8年生まれ、栗国村浜出身。明治40年代生まれの父親、祖父といっしょに
漁に出て、伝統的な漁法を習得した。

ムツブシ、ブリブシと言って、6つの星。ブリブシ、あれが上がるとマグロ、カジキ、イカが釣れる。大物
が釣れる。イカは大物でないけど。「ブリブシがあがいんど」と言った。ウマノファブシは2つの星で平行
に見えたら無風状態になる…ウマノファブシ、マキタ(同じ高さ)ウガレバ、マグリブシ…。(北尾注 ウ
マノファブシ…明るい星ふたつと語ってくださったので、ケンタウルス α β のことと思う)

SNさん(昭和8年生まれ、浜出身)が話に加わってから、SSさんもブリムンと語り始めた

・SNさん ブリムン 10くらい どれくらい上がった時間(を知る)

●STさん(大正15年生まれ、栗国島浜出身)

タテイチブシ 3つくらいならんでいる。ブリムンのそばにタテイシでる。ゆーあきに出る。ブリムン 8
人の兄弟。

●TAさん(昭和13年生まれ、アギ集落(西)出身)

ブリムン ぶり:群れている ムン:もの

●NAさん(昭和16年生まれ、栗国村アギ集落出身、現、東区長)

ブリムンという。これ正式の名前かどうかわからないけど、栗国で。

ブリってかたまっている。ムンとはもの。ブリムン。年寄り言うのを聞いて。

この辺きたら早く寝なさいとか。

「ブリムンモイリカタンチョンドー」(ブリムンが西に傾いたからもう時間がおそい)

●SKさん(大正14年生まれ、栗国村アギ集落出身)

ブリブシあがると夜が明ける。ブリ、かたまっているから。

「ブリブシアカンシュー」(ブリブシがあがる)

(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

2 オリオン座

沖縄本島地域には、三つ星、三つ星に黄金(クガニ)を加えた星名、縦に並んでいることからのタテ一チが分布している。

(1)伊是名島(1984年アンケート調査)

・島尻郡伊是名村…ミーチブシ

(2)伊江島

・島尻郡伊江村…ニチブシ(北尾 AC) (ニチとは、「3つ」のこと)

(3)沖縄本島

・中頭郡読谷村…ミーチブシ、ミーチブサー(北尾 AC) ・糸満市喜屋武漁港…サンユシブシ

昭和9年生まれの話者の話(友利さんの案内)

●サンユシブシ、三つ並ぶ。縦にも横にも並ぶ。三角形ではない。暑さ寒さに関係なく見える。

ブリブシと近い。同じくらいの明るさで明るい。

・糸満市糸満…ミイチブシ

(4)渡嘉敷島

・島尻郡渡嘉敷村…ミツブシ(北尾 AC)

(5)渡名喜島

・島尻郡渡名喜村…ミイブシ(北尾 AC)

(6)栗国島(2020年調査)(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

・島尻郡栗国村浜…タテイシ、タテイチ(北尾 C)

・島尻郡栗国村アギ集落…タテーチ、クガニミイチブシ(北尾 C)

●栗国村SSさん、昭和8年生まれ、栗国村浜出身。

タテイシ、タテイチと言っていた。タテーチブシ、タテイシブシ。一直線に3つある。明るい。イユークツシャフシ(北尾注 さそり座)が沈む。ブリブシ→タテイシ→ユアアカという順番でのぼる。

●STさん(大正15年生まれ、栗国島浜出身)

タテイチブシ 3つくらいならんでいる。ブルムンのそばにタテイシでる。ゆーあき(夜明け)に出る。

ブルムン、その下の3つタテイチ。タテイチあがとんどう。

タテイチ。たてに。ゆあけ、あがる。タテイチ(北尾注 7月22日訪問したが、まさにその頃のような)

●TAさん(昭和13年生まれ、アギ集落(西)出身)

クガニミチイブシ

●SKさん(大正14年生まれ、栗国村アギ集落出身)

タテーチ

3. 北極星(こぐま座 α 星)

(1)伊是名島

・島尻郡伊是名村…ニイヌフハノフシ(子の方星)(北尾AC)

「ユルハラス船ヤ、ニイヌフハ星ミアテ、ワンナチャル親ヤワンドミアテ」と歌われている。

(2)伊江島

・国頭郡伊江村…ニイヌファブシ(北尾AC)

(3)沖縄本島

・中頭郡読谷村…ニヌファブシ、ニイヌファブシ(子の方星)

読谷村では、ニイヌファブシは、北の空の大將であると伝えられていた。(北尾AC)

・糸満市糸満…ニヌファブシ(北尾C)

(4)渡嘉敷島

・島尻郡渡嘉敷村…ニイヌハブシ(子の方星)(北尾AC)

(5)渡名喜島

・島尻郡渡名喜村…ニイヌフハブシ(子の方星)(北尾AC)

「夜(ユル)走(ハ)ラス船(フニ)ヤ子(ニイ)ヌ方(フハ)星(ブシ)目(ミ)当(アティ)、我(ワ)身(シ)産(ナ)チャル親(ウヤ)ヤ我(ワ)身(シ)ドウ目当ティ」

(6)栗国島(2020年調査)(友利健氏の案内、福里美奈子氏同行)

・島尻郡栗国村浜…ニイヌファノフシ(北尾C)

●栗国村SSさん、昭和8年生まれ、栗国村浜出身

ニイヌファノフシ、動かない。星が見えなければ(ニイヌファノフシめあてにできないので)、波のうねり判断。

4 北斗七星

北斗七星(おおぐま座 $\alpha \beta \gamma \delta \epsilon \zeta \eta$)全体

(1)伊是名島

- ・島尻郡伊是名村…ナナチフシ、ニーウーフシ(北尾AC) (シサク(柄杓)のことを「ニーウー」と言う)

(2)伊江島

- ・国頭郡伊江村…ナナチイブシ

(3)沖縄本島

- ・中頭郡読谷村…ナナチブサー(北尾AC) (星のことを「ブサー」と呼んだ)
- ・島尻郡與那原村(現 与那原町)…カジマヤーブシ(風車星) (内田 1949)

(風車の形の星とみてカジマヤーブシ。97歳のお祝いは、カジマヤー(風車)を持たせて赤ちゃんの真似をさせた。97歳で再生し童心にかえると伝えられていた。風車を北斗七星(おおぐま座 $\alpha \beta \gamma \delta \epsilon \zeta \eta$)と重ね合わせて、長寿を感謝し祝ったのだろうか)

(4)粟国島

- ・島尻郡粟国村浜…ニーブブシ(ニーブ、柄杓、クバの葉で作る。ナナチブシという人もいる) (北尾C)

なお、八重山諸島には、ニブ、ニーブは伝えられていない。八重山郡竹富町鳩間島においては、フダルブシ(北尾AC)であるが、フダルとは柄杓のこと。

5 宵の明星

(1)伊是名島

- ・島尻郡伊是名村…ユウバンマウヤー(北尾AC)

「夕食を早く準備しないと、ユウバンマウヤーに食べられてしまいますよ」「マウヤーとは、食べたそうに眺めていること」

(2)伊江島

島尻郡伊江村…ユーバンブシ(北尾AC)

(3)久米島

- ・島尻郡久米島町…ユーバンブシ、ユーバンフシ(夕飯星) (北尾C)

「ユーバンブシは、夕食のときに光る、一番大きく西のほうに光る」

(4) 沖縄本島

- ・国頭郡本部村渡久地(現 本部町)…ナナユヒーブシ(内田 1949)

(この地方の泊というところにあった畑の名称「ナナユヒー」が星名となった。畑の所有者がナナユビーという畑を忠実な召使にあげたところ、召使は昼間は主人の仕事に励み、夕方宵の明星輝く時刻からナナユヒーで働いたことからナナユヒーブシと呼ばれた。この場合は、宵の明星が見える方向に「ナナユヒー」という畑があったのではない)(内田 1949)

- ・中頭郡読谷村…ユーバンマンジャー(北尾AC)

(5) 渡嘉敷島

- ・島尻郡渡嘉敷村…ユウバンマンジャーブシ(北尾AC)

(6) 粟国島

- ・島尻郡粟国村浜…ユーバンマブヤー(北尾C) (マブヤー:待っている)、
- ・島尻郡粟国村アギ集落…ユーバンマンジャー(北尾C) (見ている。ごはんをにらめっこしているという意味ではないか)

6 明けの明星

(1) 伊江島

- ・島尻郡伊江村…ユーアカブシ(北尾AC)

(2) 沖縄本島

- ・中頭郡読谷村…ユーアカブシ(北尾AC) ・糸満市喜屋武漁港…ユーアカブシ(北尾C)

昭和9年生まれの話者の話(糸満市喜屋武漁港、友利さんの案内)

「ユーアカブシ、大きな星が出る。ユーアカ。明け方、4時、5時。ヨアケブシ。ユーアカブシあがると夜明ける」

(3) 渡名喜島

- ・島尻郡渡名喜村…ユウアカー、ヨウカー(北尾AC)

(4) 渡嘉敷島

- ・島尻郡渡嘉敷村…ユウアカシブシ(北尾AC)

II 奄美群島地域の星名伝承に関する天文民俗学的データ

1 プレアデス星団

(1) 奄美大島(2001年、2011年調査、宇検村芦検、大和村思勝は1983年アンケート調査)

奄美大島より南では、群れ星のグループや七つ星のグループの星名が分布している。

- ・奄美市住用町市…ブリブシ(星、固まってる)
- ・奄美市笠利町笠利…ボレブシ(ボレブシ、固まっている。群れている)
- ・大島郡宇検村屋鈍…ブリブシ(時間わかる)
- ・大島郡宇検村平田…ブルブシ、ブリブシ(ヨアケブシが上がる前にね、ブルブシが先にあがって)(ブリブシは集団になっているから。ここだけ集中してる)(テンノブーリーブーシーヤ、ユーミバユーミナリユーリ、ウヤヌユシグートゥヤー、ハテシネーラヌ、ナレーショナー、ナレーショナー)
- ・大島郡宇検村芦検…ブレブシ(ブレブシが見えると寒が出る)
- ・大島郡大和村今里…ブリブシ、ブレブシ(ブリブシいうたら、天の星のことですよ。下から見たら集まってるみたいに見えるから、あれはブリブシや、年寄りなんか言っておったのです。下から見たらいっぱい集まって見えるのですよ)
- ・大島郡大和村思勝…ブレブシ
- ・大島郡瀬戸内町古仁屋…ブリブシ、ブリフシ(星さ、固まってるわい。じきじきによって朝あがってくることもある。天ヌブリブシハ、ヨミモナル。オヤノユガゴトハ、ヨミハナラヌ。天のブリブシは数えられるが、親が教えることは多いから数えられない。ブリブシ、7, 8個。真^ま角にしっぽみたいなのがついている。固まりを「ブリ」。ブリブシあがったら何時、だいたいわかる)
- ・大島郡瀬戸内町西古見…ブリブシ(固まっているのを「ブリ」)

(注) 文献に、大島郡宇検村…ブレブシ(ブレブシはミツブシより三尋(ひろ)ぐらい先きに出るといっている)(野尻 1973)

(2) 加計呂麻島(2011年調査)

- ・大島郡瀬戸内町芝…ブレブシ(星がいっぱいある。10ぐらい。固まるいうことを「ブレ」。ブレブシがどこきているから何時と、おおよそ検討ついた)
- ・大島郡瀬戸内町諸鈍…ブリブシ(昔は言いよった。ブリブシ、小さい。ミツブシ、大きい)

(3) 喜界島(1980年調査)

- ・大島郡喜界町小野津…ブリブシ

坂嶺…ブリブシ 手久津久…ブルムン 上嘉鉄…ブリブシ 花良治…ブルムン

- 大島郡喜界町手久津久の俚謡

天ヲ群^{ブリムン}星ヤ、他人ヲ上^{ユ ス ウイ テ}ズ照ルリ、黄金三ツ星^{クカネ フシ}ヤ吾ガ上^{ウイ テ}バ照ルリ。(北尾 C)

(注) 文献に、「大島郡喜界町…ブリ・フシー、ブリー、ブリヨーファー(岩倉 1941)」がある。

(4) 徳之島(1984年アンケート調査)

アンケート調査を実施したところ、徳之島の民俗研究家松山光秀氏より回答を得た。

以下、松山氏による伝承資料である。

・大島郡徳之島町徳和瀬…ブレブシ

●ブレブシヌ真カンミヤへ

松山光秀氏によると、2月の日没後真上に見えるブレブシについて伝えられている。

「『ブレブシヌ真カンミヤ、春^{ハル}ヌ節^{シチ}ヌ入り』と言った。宵の口にブリブシが真上に見える頃は『天黒(テングル)ミ』と言って曇りが多い。この時期に春の節に入る」

●日没後の西の空でテルハンギ高へ

松山光秀氏によると、4月になるとブレブシは、日没後の西の空でテルハンギ高となる。

テルとは竹製の背負い籠のこと。宵の口、薄暗くなりかけの時刻に、頭にテル籠の緒をかけた状態、すなわち、少し前かがみになって西空に向いたとき、目にブレブシが入ってくる高さにある時期をテルハンギ高と呼んだ。

徳之島町では、「西^{イリ}テルハンギ高^テヤ田植ドキ」と伝えられ、日没後の西空でテルハンギ高にプレアデス星団が見えたときを田植の時期の目標にした。

●日没後の東の空テルハンギ高へ

松山光秀氏によると、宵の口、薄暗くなりかけの頃のブレブシがテルハンギ高の高度一頭にテル籠の緒をかけた状態、即ち、少し前かがみになって東空に向いたとき、目にブレブシが入ってくる高さにある時期を麦植の時期とした。そして人びとは、「東^{アゲレ}テルハンギ高^デハ麦^{ムギウエ}植ドキ」と語り伝えた。西テルハンギ高で田植の時期を、東テルハンギ高で麦植の時期を知ったのだった。

(5) 沖永良部島(1984年アンケート調査)

・大島郡和泊町永嶺…ブリブシ

(注) 文献に、「大島郡和泊町…ブリフシ(burifushi)(岩倉 1940)」がある。

そして、岩倉市郎氏が、1936年6月12日、沖永良部島上平川の平前信氏から記録した「キーチャ殿の話(Kiicha-dun nu fanashi)」が、『沖永良部島昔話』に掲載されている。

キーチャ殿は、「さア良か人間の魂は、天に上るといふものだ」と言って、握り飯三つ袂に入れて、馬に乗って天の庭に上った。天の庭に上ってからのブリブシ(burifushi)、ミツブシ(mitsubushi) (ミチブシ(michibushi))、ユアキブシ(yuakibushi)と出会う。(岩倉 1940)

(6) 与論島(2020年調査)

- ・大島郡与論町古里…ブリブシ ・与論町東区…ブリブシ ・与論町城…ブリブシ
- ・与論町茶花(古里出身)…ブリブシ

与論町については、与論町役場、麓氏、竹氏の案内で和歌山大学澤田幸輝氏同行で調査を実施した。澤田氏による録音の聞き取りを北尾の調査ノートの走り書きとともにS「」S表示で掲載した。

●HAMさん、昭和9年生まれ(与論町東区。古里出身)

ブリブシ、12時くらいしか出ない。その出のあたりに釣れる。ブリブシ、8つくらいある。2時間ほどでミチブシ(フガニミチブシ)。ちいさいのが3つ。

HAMさんの父親が糸満に雇われた。久米島などで14歳から20歳まで雇われた。そのときに、「ブリブシの出るときイカが釣れる。サメでもなんでも釣れる。あとは釣れないわけではないけどぼつぼつと釣れることもある」と聞く。2時間ほどでミチブシが出る。小さいのがさらに3つあるけれどもミチブシ。ミチブシ出るときも釣れる。

●YAIさん、昭和11年生まれ(与論町東区出身)

ミチブシの上にブリブシ。ブリブシ、6つ。

●OOYさん、昭和7年生まれ(与論町城(ぐすく)出身)

やゆい(夜遊び)。若い男女。ティンヌブリブシヤ ミーナノ上ニテラス フガニミチブシ ワンド上ヅテルリ ヤユイの夜遊びの歌。夜遊びで歌ってたものです。天のブリブシ皆が上に照らす フガニミツブシわーういど照らす…と輪になって歌う。

(昭和11年生まれのおくさんOOFさん(立長出身)が歌う。)

ブリブシ12個くらい、6つはだいたい見える。いま6つくらい見える。

時間で移動するブリブシもあるし… 夜遊びして歩いて、これ(ぶりぶし)が頭の上に来たからお別れの時間だな…と言った。

ブリブシ、頭の真上に見える。

(北尾注 フガニミチブシは中天に輝き、我の上に輝くのであるが、ブリブシはほぼ頭の真上なので皆を照らすのだろうか。あるいは、プレアデス星団だけでなく、空いっぱい星をブリブシと言って皆の上に照らすと歌ったのであろうか)

●UMさん、大正15年生まれ(与論町茶花(古里(ふるさと)出身))

7個がかたまつたブリブシ。全部ある星をブリブシと言ったり。星空の星すべてをそうまとめてブリブシと言ったり。ブリブシ、かたまつたのをブリブシ。ぶり＝群れ。

ティンヌブリブシ＝たくさんの星あること。総体的にブリブシ。数えたら数えることができおるけど、親のゆしぐとは数かぎりない。「天ぬブリブシやゆみはゆまりしが、うやぬゆしぐとうや ゆみんなん」

S「何と言うかな、あの一彗星。彗星かな。あのティンヌブリブシはもういっぱい、天に全部ある星をブリブシと言ったり。それからあの彗星ですかあれは、固まつた7つか8つぐらいのがあるでしょ、あれをブリブシといったり」S

S「それから、星空の星、全部を総まとめにしてブリブシと言ったり、それもその地区、その人その人の一定には決まっていなかったです」S

S「決まっていはいない。でも、わりとブリブシっていうのは、あの彗星、スバルのことをブリブシ」S

●TAKさん、昭和42年生まれ(与論町東区出身)(大正14年生まれの父親から聞いていた。父親も東区出身)

追い込み漁。父親が船酔いをしたので、中学出てからは、TAKさんがイカ釣りをした。(アカイカ)

ブリブシ、3時頃、あがってきてない。あがってきたら、夜明けのイカとれた。イカのくいつきよくなる。

ブリブシ ぶり＝群れ ブシ＝プシ 群れる星

(北尾注 最初、3時頃に上がると語り始めたが、3時頃に上がっておらず、しばらくしてから上がって夜が明けるといふ説明に変わった。確かにイカのはじまる6月下旬、7月はじめ(梅雨明けして)なら、たとえば6月25日なら出るのは3時7分で実際に見えるのは3時では不可能で、説明の通り比較的に見やすく高度を少しずつあげ4時半頃になると薄明が進んでいく)

中学入学とともに父親と漁に行き、ブリブシが出てイカのくいつきがよくなって夜が明けるといふことを聞いて経験をした。(昭和50年代、60年頃の経験)

●YAIさん、昭和13年生まれ(与論町東区出身)

ブリブシ、小さい星がかたまつた、小さくかたまつて十(とお)くらい出ます。

プシが動いているのか船が動いているかわからん。プシ、時間のめあてになる。このブリブシがのぼってきたら何時頃だねーとだいたい。イカくいついてくる時間わかる。(北尾注 明確に星の出にイカが釣れるという説明ではなかった)

やゆい(夜遊び)、あそびんちゅ、みんなで歌った。男も女も集まって歌ったりして。

「ティンヌブーブリブシヤー ミナガウィードテユル」

「フガニミチブシヤー ワウイドティユールーヨーテ」

●KKTさん、昭和2年生まれ(与論町東区出身)

ブリブシの高さで時間。

「ティンヌブリブシヤ ミナガウイドティユル フガニミチブシヤ ワーウイドティユル」

●HIMさん、昭和12年生まれ(与論町東区出身)

ブリブシ、東から。あれ(ブリブシ)はかたまつて10くらいじゃないかな。それが上がったら夜明けになる。あれが上がったらイカが釣れる。スミイカ、アカイカ。ブリブシが上がったらイカが釣れる。これから7、8月、9月までイカ釣れる。

●KATさん、昭和15年生まれ。80歳(与論町古里出身)

ブリブシ。5つかたまつてある。あれをブリブシ。ブリ、かたまつているという意味。東の空、朝、3時、4時出て、出たらイカ釣り。いまごろ、4時、5時、ブリブシ。プシをめあてにして船を走らす。(北極星でなくても東とわかる) ブリブシ アカイカとれる。5つ。

ブリブシあがったとき、(アカイカ)潮の関係で釣れるときもある、釣れないときもある。

ブリブシ、ミチブシ、おやじ、先輩から聞く。

その他、プレアデス星団を意味しないケースがあった。一人は「全天の星を意味する」

(与論町役場の案内。澤田幸輝氏同行)

2 オリオン座

奄美大島、喜界島以南は、酒榭は記録されていない。酒とは特定していない「榭形星」が奄美大島に、油を量る「油合(アブラゴウ)」が喜界島に伝えられている。奄美大島、喜界島は、榭のグループと三つ星のグループの星名が両方記録されているが沖永良部島、与論島では、三つ星のグループのみである。また、与論島においては、黄金(フガニ)を三つ星に加えた星名が分布している。

(1) 奄美大島

- ・ミツブシ…大島郡大和村思勝(北尾 AC)、
宇検村平田、同屋鈍
- ・ミツブシ…大島郡宇検村平田(北尾 C)
- ・ミチブシ…大島郡和泊町永嶺(沖永良部島)(北尾 AC)
- ・ミツルブシ…大島郡大和村今里、喜界町小野津、塩道(北尾 C)
- ・大島郡大和村今里で記録したミツルブシの歌。(話者生年 大正6年)

「ヨーナカミツルブシ、ミチャルチューヤーオラヌヨ。ワレハーカナーシノーデー、イキニミーチャルヤー」

原典 奄美大島大和村のミツルブシの歌 採録者 北尾正子

カナは彼女、「ミツルブシ」は、オリオン座三つ星のこと。夜中まで人は起きていないから、見ている人はいない。彼女に会いにいくと、そのとき、ミツルブシが輝いていた。満天の星ぼしに響く恋人の歌であり、昔は、心のなかに星があり、そして、心で星を見ていたことを教えられる。

奄美大島には、次のような柵のグループの星名が伝えられている。

- ・大島郡宇検村…マスカタブシ(野尻 1973) ・奄美市笠利町笠利…ツガブシ(北尾 C)

大島紬のツガの緋柄(かすりがら)をオリオン座三つ星と小三つ星と η 星の柵の形に見立てたもの。ツガは柵の形の緋柄。明治後期から多様化していった緋柄のひとつがツガで、この星名は比較的最近に形成されたものであると推測できる。

奄美市笠利町笠利の昭和5年生まれの漁師さんの話。

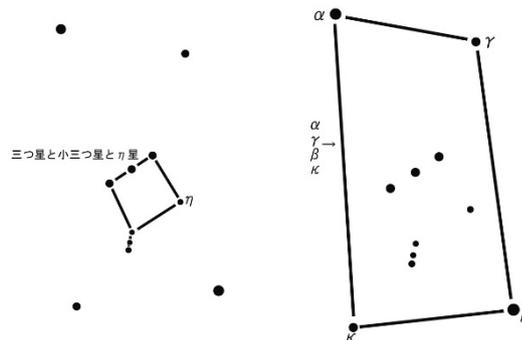
「夜釣り行った。『柵』みたいな形、『ツガフシ』。こう出たら夜が明ける。井戸にあるような柵みたいな。ツガフシ、東から出て西の方に沈む。北斗七星とちがう。夏、夜釣り。ツガフシ、夏、夜が明けてくる。鯛の一種のクツナギは夏にとれる。今いない」

- ・奄美市笠利町喜瀬…マスカタブシ(北尾 C)

奄美市笠利町喜瀬の大正9年生まれの漁師さんの話。

「マスカタブシ(柵形星)。8月、夜が明ける頃、四角にまんなか3つ星が出る。太い。光、しっかりした。マスカタブシ。夜明け出る。マスカタブシ。マスカタブシが真上にきたら夜が明けよった。9、10月頃」

オリオン座三つ星と小三つ星と η 星と推測したが、話者は、オリオン座 α γ β κ を意味している可能性がある。



(2) 加計呂麻島

・マスカタブシ…大島郡瀬戸内町芝。マスカタブシ、柵の形して出てくる。それも旧の日数によって時間が異なる。マスカタブシは、祖父、父親から聞く。祖父が、マスカタブシここきているから何時と目標にしていた。(柵形星)(オリオン座三つ星と小三つ星と η 星)

・ミツブシ…大島郡瀬戸内町諸鈍。ミツブシ大きい。同じ間隔。3つ同じ大きさ。八月踊りのなかに「ヨーナカミツブシヤ、ミチャルチュヤウラヌ、ワヌガカナユエニ、ミチャル」。彼女を会いに行ったとき見た。8月は毎日踊ってよい。(オリオン座三つ星)

●星名知識の習得(諸鈍、昭和8年生まれ)

「かたれ」と言って、浜のほうで話し合い。浜で、「かたれ」。子どものときにブリブシを聞く。空がきれいで、「夜中ミツブシ。ミツブシは見た人おらん、自分が彼女をしのんで行ったときに見た」という歌を、子どもの頃、浜で夏、「かたれ」で年寄りから聞いた。北斗七星、北極星、学校で習った。夏場、「か

たれ」、浜で、子どもは、歌を年寄りから教えてもらう。学校で歌ったり、ブリブシとか島口言ったら怒られた。札を持たされて。次、方言いう人がいるまで持たされる。ブリブシと言ったら方言の札。歌は青年会に入ってから。ミツブシ、ブリブシ、ユーバンブシ、ヨアケブシ、兄さんや年寄りより教えてもらう。「かたれ」で聞いた話。

●星の出、入り、月の出、入りと漁(諸鈍、昭和8年生まれ)

星の出、入り、月の出、入りと魚は関係ない。ガティン、火であぶったら浮いてくる。灯油のランプ。昔は松の木の芯をたいて、と話を聞く。経験したことはない。闇夜、旧20日頃から行くこともある。21日くらいからガティンに出る。11月から3月、4月まで。ブリブシ、ミツブシ見えていた。

(3) 喜界島

三つ星と梶のグループの両方の星名を記録した。アブラゴは酒ではなく、油を量るのに用いた。

・大島郡喜界町小野津…ミツリブリ(岩倉 1941)、ミツリブシ、ミツルブシ(北尾C)

坂嶺…ミツルブシ(北尾C)、花良治…ミツンブシ、ミツブシ(北尾C)、塩道…ミツルブシ(北尾C)

・大島郡喜界町手久津久…アブラゴ、荒木…アブラゴ(北尾C)

喜界町小野津で、さそり座をフスクーという魚を釣る釣り針に見立ててフスクーバイと呼んでいたが、その星について、「ミツルブシと同時に見るができない」と語った。(北尾C)

喜界町の俚謡に、「黄金(クカネ)三つ星(フシ)ヤ吾ガ上(ウイ)バ照ルリ」というように、オリオン座三つ星が登場する。(北尾C) 40年後に与論島で会うことができた。(与論島の項参照)

(4) 徳之島

大島郡徳之島町徳和瀬…マシカタブシ

●酒ではないが、取っ手のついた梶に見立てていた。徳之島町においてもブレブシ(群れ星)を後から追いかけていると伝えられている。(松山1984) プレアデスを追いかける様子を、人びとが生活のなかで注目したことがわかる。

(5) 沖永良部島

・大島郡和泊町永嶺(沖永良部島)…ミチブシ(北尾AC)

(6) 与論島

拙著『日本の星名事典』には、三上晃朗氏の記録した下記の星名を掲載した。

鹿児島県大島郡与論町…ミツブシ(三上C)

2020年6月、予想以上の記録ができた。

・大島郡与論町那間…フガニミチブシ ・与論町東区…ミチブシ、フガニミチブシ

・与論町古里…ミチブシ、フガニミチブシ ・与論町城…ミチブシ、フガニミチブシ

●IMNさん、昭和8年生まれ(与論町那間出身)

フガニミチブシ。フガニとは黄金。三つ。ワンド上におれのうえに)

天(テン)のブリブシみなの上をてらす、フガニミチブシワンの上(うい)てらす

よあそび。夕方おそくからみんなであそぶ。星空の下で。ときには20人も男が三味線をひいて、女ひとりに・・・ フガニミチブシ、たてに3つきれいにみえる

●IKNさん、昭和27年生まれ(与論町那間出身)(竹さんの案内)

フガニミチブシ、フガニ 宝。宝物にはフガニをつける。フガネグラー 子ども。子=グラー

フガニミチブシ ひとつ プシ 上につくとブシ。例:ブリブシ

フガニミチブシ ミチ 3つ

●HAMさん、昭和9年生まれ(与論町東区。古里出身)(麓さんの案内)

ブリブシの出るときイカが釣れる。サメでもなんでも釣れる。あとは釣れないわけでないけどぼつぼつと釣れることもある。2時間ほどでミチブシが出る。小さいのがさらに3つあるけれどもミチブシ。ミチブシ出るときも釣れる。

●YAIさん、昭和11年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

ミチブシ、3つ。たてに1. 2. 3. 1時くらい。フガニミチブシ、ミチブシ。ミチブシもイカくうが、ヨアケブシがいちばんくう。ヨアケブシをユアイブシという

●FUHさん、昭和13年生まれ。東区出身(麓さんの案内)

ミチブシ、3つなった。たてになったり、よこになったり、時間によって。

●OOYさん、昭和7年生まれ(与論町城(ぐすく)出身)(OOFさん、昭和11年生まれ(与論町立長出身))(麓さんの案内)

やゆい(夜遊び)。若い男女。ティンヌブリブシヤ ミーナノ上ニテラス フガニミチブシ ワンド上ヅテルリ ヤユイのあそびのうた。よあそびで歌ってたものです。天のブリブシみな上を照らす フガニミチブシわーういど照らす…と輪になって歌う。(昭和11年生まれのおくさん、OOFさんが歌う)

ミチブシ、フガニミチブシ、同じ間隔で出る。フガニミチブシの「フガニ」はコガネ(黄金)。

●UMさん、大正15年生まれ(与論町茶花(古里(ふるさと)出身))(麓さんの案内)

(ぶりぶしがでたあと)おそくなってから、3つ星が出る。フガニミチブシヤ、ワガ上ヅデルリ(彼氏は自分のことばかり思ってくれている)(夜明けまで一晩中、うろついて歩いて) フガニ、黄金 ふがにみちぶし=黄金のみちぶし

やゆ若い連中、歌を歌ってそれに対するかえし…のなかに、「フガニミチブシヤ、ワガ上ヅデルリ」。夜遊び。あしびんちゅ(遊び人)。やゆい(よあそびのとき三味線ひいた、男が三味線ひいた。)(女性だけど三味線ひいた。)(S「」Sは、澤田幸輝氏による録音の聞き取り)

S「フガニミチブシヤ、あのワーウイドゥテラスって。自分ことだけを照らすっていう意味にもなるし、それから彼氏のことにもなるし、一緒に二人で見たっていう意味にもなるし、そのまた彼がいつも自分のことを見ている、守ってくれているっていう意味にも取れるし、色んな意味に分かれてるんですよ」S

S「そう。想ってくれているっていう意味にも取れるし、それからまた二人で一緒に、昔は今みたいに怖い時代じゃないから、もう夜明けまで一晩中、あのうろついて歩いとって別にも何てこともない。悪い奴もおらん。あの人殺しもおらん。何にもいない。すごく平和なんだから。だから一緒にフガニミチブシ、だからミチブシにミツブシ、あのフガニっていうのは黄金、黄金(おうごん)という意味ね。だから、特別な黄金っていう、黄金(おうごん)ミツブシって特に付けたような、なんですね」S

S「ただ、聞く人によって、聞く人によって感じるその唄う人によって感じる、感じだけで自分の上を照らしているとか、それから彼氏が照らしているとか。あの昔は夜遊っていう習慣があったの。若者全部集まって、夜一晩中、唄って騒いで、毎晩。その時に唄うのが、あの彼氏と二人きりで唄う時は、まあフガニミチブシは、あんたの想いはうちのことばかり想ってくれているとか、私の想いはあんたのことばかり想っているとか。で、こう返し歌でやる人もあるし、それからあのほとんど、人生観っていうかな、それではまたお天道様のブリブシは、みんなが上を照らしてるけど、そのミツブシだけは自分を照らしてくれていると。あの一種の自分の寂しさ、寂寥、寂寥感を慰めてくれるっていうかな。その意味で唄う人もいるし。で、私なんかは、よく空想ばかりする奴だから、そのようにとったり。自分にはやっぱりフガニミチブシが指してくれているんだなあって思う時もあるし、その感情、自分の感情で唄う、歌の意味が違ってくるんですよ」S

S「うん。与論ではアシビンチュ。それが大分、終戦後5年くらい続いたんだけど、いつからなくなったのか分からない。その辺の記憶はあまり定かでない」S

●KKTさん、昭和2年生まれ(与論町東区)(竹さんの案内)

ミチブシ 3つ並んでいる たてに3つ並んでいる。男、三味線ひいてあそびんちゅ。ミチブシ、帰る時間。

「ティンヌブリブシヤ ミナガウイドティユル フガニミチブシヤ ワーウイドティユル」

●HIMさん、昭和12年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

東から上がってくる。ミーチブシ。

●KATさん、昭和15年生まれ。80歳。(与論町古里出身)(麓さんの案内)

あれは、3つならんている。あの星の名前を与論ではミチブシ。ミチブシ、ブリブシ、東(からでる)。ミチブシがブリブシのあとと思う。

3. 北極星(こぐま座α星)

奄美大島・喜界島以南では、「子+方」と「子の星」のグループの星名が分布している。「子+方」は、沖縄県与那国島まで広く分布している星名である。また、星(ホシ、ボシ)のことを「フシ」「ブシ」と呼ぶという点がトカラ列島以北との相違点となっている。

(1) 奄美大島

- ・大島郡大和村思勝…ネンノハウボシ(ブシ)(北尾AC)
- ・大島郡大和村今里…ネブシ、ネノハウブシ(北尾C)
- ・大島郡宇検村平田…ニブシ、ネブシ(北尾C)

横当島へ渡るときに目標にしたケース

「星を見て行きよった。子、丑、寅、ハウバリ(方針)目標に、横当に行った。すわってばっかりやるのをきつくなれば、あの星、目標に。ネノハウブシ、いごかん」(大島郡大和村今里)

「ニブシ、ニブシ言うてた。ニブシ、ネブシ。子(ね)、丑、寅の子、子星(ネブシ)。横当島まで櫓で行った。この星に向かえば、北に走るいうわけでしょ。これを背中にすれば南に走るいうわけよ」

(2) 加計呂麻島

- ・大島郡瀬戸内町芝…ネノハウブシ(子の方星)(北尾C)

(3) 与論島

- ・大島郡与論町那間…ニヌファブシ
- ・大島郡与論町城…ニヌファブシ

●IMNさん、昭和8年生まれ(与論町那間出身)

ニヌファブシ。イカリおろしていない。どこまで行っているかわからない。ながしながら、沖ノ島(沖永良部)、沖繩見える。(ニヌファブシも沖永良部も沖繩も見えないとき)、火をたく、火を見せる。小学校の校庭の土手?で火をたく。それを見て船を走らせ与論島へ着く。

●OOYさん、昭和7年生まれ(与論町城(ぐすく)出身)(OOFさん、昭和11年生まれ(与論町立長出身))(麓さんの案内)

ニヌファブシいうて、もう昔の人は夜の星を頼りにして航海したんですよ。夜のイカ釣りの漁法。ニヌファブシその星をながめて与論島は右下のほうにあるというように。ゆるはらすふにはにぬふあぶしみあてい。(OOFさん(立長出身)が歌う)にぬふあぶし、移動しなかった。

4 北斗七星

数の七にもとづく星名が広く分布している。徳之島町の北の方の船型星がおおぐま座 $\gamma \delta \epsilon \zeta \eta$ 星かどうか、ナナツブシ以外は本当に記録されていないかについては今後の課題としたい。

(1) 奄美大島

- ・奄美市住用町市…ナナツブシ(北尾C)
- ・大島郡大和村思勝…ナナツボシ(ブシ)(北尾AC)
- ・大島郡大和村今里…ナナツブシ(北尾C)

鹿児島県大島郡大和村今里には、次のような歌が伝えられている。

「アマノカワヲホダメラレテ、テリヨルブシーダモソ、イノリタナーバタニヤレイチオチマタボーレー」

「テンニトヨーマレルハ、ナナツブシー、スブシ、ジンニトヨーマレルハリヤ、ナキヤトワーキヤトウ」

スブシはアルコールを意味する。

歌について、「うちの島は、天に兄妹(きょうだい)がおったわけよ。天の川があるから、雨が降るときには川が水が出るから愛がならなかったということよ。七夕のときに雨が降ったら天の川の兄妹が会わなかったというて…」と説明してくださった。

七夕と言えば、ベガとアルタイルであるが、この場合はナナツボシ(おおぐま座 $\alpha\beta\gamma\delta\varepsilon\zeta\eta$)とスブシ(アルコール)であった。地域で伝えられてきた伝承が七夕の伝承の影響を受けたのであろうか。

なお、ナナツブシが女、スブシが男、「ほだめて」は、こんなに離れておっということ、「イチオチマタボレ」は、「会わせてくれる」ということ。

その他、 $\alpha\beta\gamma$ でイコブシ(枅星)と呼んだケースである。

●イコブシ(枅星)

鹿児島県奄美市名瀬小湊に伝えられている。「イコ」は、枅(おうご)で天秤棒。おおぐま座 $\alpha\beta\gamma$ の Λ を天秤棒に見立てた。(北尾 C) 磯貝勇氏が大島郡宇検村出身の浜田氏から聞いたオーコブシ(枅星)は、さそり座アンタレスと $\sigma\cdot\tau$ の Λ を意味した。(野尻 1973) 名瀬小湊の場合、北の空と伝えられており、ナナツブシと言わないでイコブシと言った。枅星は、多くの場合、さそり座アンタレスと $\sigma\cdot\tau$ の Λ を意味するが、同じ星名が複数の星を意味するケースもある。なお、奄美市名瀬小湊では、多くの場合は北斗七星(おおぐま座 $\alpha\beta\gamma\delta\varepsilon\zeta\eta$)を意味するナナツブシはブレアデス星団を意味した。

(2) 徳之島

・大島郡徳之島町…ナナツブシ(松山 1984)

(3) 沖永良部島

・大島郡和泊町永嶺…ナナツブシ(北尾AC)

(4) 与論島

ニブとナナチブシを記録。

・大島郡与論町那間…ニブ ・与論町東区…ニブブシ、ナナチブシ

・与論町古里…ナナチブシ

●IMNさん、昭和8年生まれ(与論町那間出身)

北斗七星、ニブ。水を汲むニブ。ひしゃくのニブ。ピロウ(与論方言 クバ)でニブをつくる。石をつける(おもりとして。石をつけないと水を汲めない) イカ釣り(赤イカ)のとき、ニブで時間。ニブ、回転してまわっていく。夜中になった。かえってくる… イカ釣り、夜。イカ釣り、来月くらいから。7月くらいから。(トビウオ終わり。その次イカ) イカ、ひっかける道具、カキジャー。(先は四つ詰めアンカーみたい 北尾注)

●YAIさん、昭和13年生まれ。東区出身(麓さんの案内)

北斗七星=ナナチブシ (ニブとはいわない)

●UMさん、大正15年生まれ(与論町茶花(古里(ふるさと)出身))(麓さんの案内)

ナナチブシ。ニブとは言わない。

●KKTさん、昭和2年生まれ(与論町東区)(竹さんの案内)

北斗七星、ナナチブシ

●HIMさん、昭和12年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

ニブブシ、柄杓。北斗七星、七つの星。ニブ(柄杓)に似た星。

5 宵の明星

(1) 奄美大島

・大島郡宇検村…ユーグレブシ(野尻 1973)

・大島郡宇検村芦検…ヒオキヤマブシ(北尾AC)

(ヒオキヤマブシ、見える方向の山の名前が星名となった。日置山星、日置山は芦検地区の西側にある山。その山の近くに見えるので日置山星と呼んだ)

・大島郡大和村…クレヌミョージョ(長田 1977)

・大島郡瀬戸内町古仁屋…ユーバンフシ(北尾C)

昭和8年生まれの漁師さんの話

「ユーバンフシ、夕飯、宵のうち西に沈むのがユーバンフシ」

宵の明星の夕飯星に対して、明けの明星のほうは、アサバンフシ(朝飯星)と呼んでいた。(明けの明星の項参照)

(2) 加計呂麻島

・大島郡瀬戸内町諸鈍…ユーバンブシ。夕方くらいになると、大きい星、ひとつの星、西の空に星出る。ユーバンブシ、8時、9時に入る。早い人6時にごはん食べる。そのときに出るからユーバンブシ。(夕飯星)(北尾C)

(3) 喜界島

・大島郡喜界町阿伝…ヨーネー・ヨーファー、ヨーネー・ヨーワー(岩倉 1941)

・大島郡喜界町小野津…ヨーネーヨーファー(北尾C)

「ヨーネーヨーファー、一日の農作業が終わって帰るときに見える。あれはよい星です」

・大島郡喜界町上嘉鉄…ヨーネーヨーファ(北尾C)

・大島郡喜界町荒木…ヨーネーヨーファ(北尾C)

(4) 徳之島

・大島郡徳之島町…イチバンブシ(松山 1984)

(5) 沖永良部島

・大島郡和泊町永嶺…ヨナブシ(北尾AC)

「ヨナブシ。沖合で魚をとり入港する場合に目標にした」

(6) 与論島

・大島郡与論町東区…ユネブシ(北尾C)

●HAMさん、昭和9年生まれ(与論町東区。古里出身)(麓さんの案内)

(夕方日が暮れて)ユネブシ そのころもイカ、サメでもなんでも釣れる。

●YAIさん、昭和11年生まれ(与論町東区出身)

ユネブシ。ユネ(夕方)西のほうにおちていく。ユネブシ、大きい、夕方。

●YAIさん、昭和13年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

夕方 ユネブシ。大きい、普通の星より少し大きい。

6 明けの明星

(1) 奄美大島

・大島郡宇検村…ユアケブシ(野尻 1973) ・大島郡宇検村芦検…ユアケブシ(北尾AC)

・大島郡宇検村屋鈍…ヨアケブシ(北尾C) ・大島郡宇検村平田…ヨアケブシ(北尾C)

・大島郡大和村思勝…ヨアケボシ(ブシ)(北尾AC) ・大島郡大和村今里…ヨアケブシ(北尾C)

(2) 加計呂麻島

・大島郡瀬戸内町諸鈍…ヨアケブシ(北尾C)

東からあがってくる。ユーバンブシと同じような星。ユーバンブシとヨアケブシ、両方、毎日出る。山アテする。星は、気象と関係ない。星は、方角も目標にしなかった。昔、時間を、ヨアケブシで知った。5時頃、高くあがってますからね。

(北尾注:明けの明星と宵の明星が同時に見えるという伝承について、片方(例えば明け)は金星で、もう一方(宵)は木星や一等星というケースが考えられる。金星が両方に見えることはあり得ない)

(3) 喜界島

・大島郡喜界町…アートゥチ・ヨーファー、アートゥチ・ヨーワー(岩倉 1941)、キキヤーノミズクミブシ(野尻 1973)

「明るいうちしか水がないので、明けの明星が出てる間に水汲みをする」(野尻 1973)

・大島郡喜界町上嘉鉄…アートチオサー(北尾C)

・大島郡喜界町手久津久…アートチオーハー(北尾C)

・大島郡喜界町荒木…アートチオーハー(北尾C)

(4) 徳之島

・大島郡徳之島町…ユウエブシ、三京(みきょう)坊主星(松山 1984)

三京坊主(みきょうぼうず)星について、次のような由来が伝えられている。

「その昔、三京(みきょう)というところに住んでいた高僧三京坊主様が死んだとき、その目玉が天に上がって星になったからだという。三京という場所は徳之島の中央部山間に位置する小集落で、古く三京坊主ガナシという高僧が住んでいたという伝承がある。いまでも立派な座禅を組んだ石像が残っている」

(5) 与論島

・大島郡与論町東区…ヨアケブシ、ユアケブシ、ユアキブシ、ユアイブシ

・与論町城…ユアキブシ ・与論町古里…ユアイブシ

●HAMさん、昭和9年生まれ(与論町東区。古里出身)(麓さんの案内)

朝、ヨアケブシ そのときも釣れる

ユネブシ→ブリブシ→ミチブシ→ヨアケブシ

●YAIさん、昭和11年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

ミチブシもイカくうが、ヨアケブシがいちばんくう。ヨアケブシをユアイブシという。ユアイブシ(ヨアケブシ) 東、大きい。

●OOYさん、昭和7年生まれ(与論町城(ぐすく)出身)、OOFさん、昭和11年生まれ(与論町立長出身)(麓さんの案内)

ユアキブシ。夜明けに見えるはっきり明るい星。

●KKTさん、昭和2年生まれ(与論町東区)(竹さんの案内)

ユアキブシ

- HIMさん、昭和12年生まれ(与論町東区出身)(麓さんの案内)

ユアケブシ

- KATさん、昭和15年生まれ。80歳(与論町古里出身)(麓さんの案内)

ユアイブシ、夜明けけるという意味。朝、ひとつ。明るい。

Ⅲ トカラ列島以北の星名伝承に関する天文民俗学的データ

1 プレアデス星団

(1) 屋久島(1982年8月調査)

- ・熊毛郡上屋久町永田(現 屋久島町)…スマル
- ・熊毛郡屋久町栗生(くりお)(現 屋久島町)…スマル、スモル
- ・熊毛郡屋久町中間(現 屋久島町)…スマル

- スマルが夜明けに沈むときを気象予知に用いた事例(屋久町栗生)

スマルが夜明けに沈む11月下旬頃、風速30メートルくらいの突風が吹く時季をスマルのイイゲシと呼んだ。

「スマルはちょうどな、11月の下旬頃な、沈むんですよ。海の中に入ってな。そういうときには、ちょうど11月の下旬頃にな、ニシカゼ、アラカゼが吹くんですよ。明け方に沈むのがいちばんアラカゼ吹くんですよ」

この気象予知方法は、次のように瀬戸内海の水軍の『能嶋家傳』に記されている。

「星すまると云星を見る也。月の出入に日和易らねどもすまると入に替るは日和損する也。殊に秋冬はすまると入を専に見る也。余の星は日和見る事無之」(住田 1930)

プレアデス星団の沈む時期は、歳差という現象により変化していく。伊予の水軍の時代のプレアデス星団の入りは、現在よりも早い時期になる。気象現象にはある程度の変動があるのでそのことが気象予知の信頼性に直ちに影響しなく、現在まで目標にされる。(北尾 2001)

(2) 種子島(2006年7月西之表市、11月南種子町調査)

- ・西之表市西之表…スバリ、
- ・西之表市住吉浜之町…スバリ
- ・熊毛郡南種子町広田…スバリ

- 漁具スバル(スバリ)と星の昴・南種子町広田の事例

「スバリ、ひっかくのをスバリ。孟宗竹(もうそうちく)で作った。おもりつけて。おもりは、石。スバリ、星からとった。7本くらい又(マタ)つけた。あのかたまった星からつけたと思う。切れた縄をひっかけた。スバリ、自分で作った」

(3) 口之島(2009年調査)

・鹿児島郡十島村口之島…スマル、スガル

(4) 中之島(1983年アンケート調査)

・鹿児島郡十島村中之島…スマル

●プレアデス星団の輝き方による気象予知

スマルがピカピカとする時は、まもなく北西の季節風が強くなると言われている。

(5) 宝島(1983年アンケート調査)

・鹿児島郡十島村宝島…スマル

スマル、スバルのグループの星名の南限は、鹿児島郡十島村宝島である。

(注) 文献に、悪石島…スマル(下野 1994)

2 オリオン座

杓のグループについて、内田武志氏は、文化年中に島津藩で編纂された『成形図説』に、「酒量、一名柄附量、参伐星ノ形是ニ似タリ、故ニ酒量星ノ名アリ、此器、酒、醋、油等ヲ料ル」と記されていると指摘している。「油等ヲ料ル」ともあり、酒杓(酒量)は、酒だけでなく油を量るために使用されたことがわかる。(内田 1949)

桑原昭二氏は、次のように広い地域で使用されていた「ますぼし」「さかますぼし」について、古い時代には相当広く分布していたのではないかと指摘している。(桑原 1963)

・淡路南部から四国、九州、・新潟を経て青森の小泊

トカラ列島以北には、日本の星の基層文化を考えるにあたって、重要な「スバル、スマル」「杓星」「酒杓」という星名が伝えられている。

杓のグループの星名が十島村悪石島まで分布している。枕崎では、三つ星のグループとともに杓のグループの星名が伝えられている。

・阿久根市港町…サカマス、佐潟…マスボシ、牛ノ浜 …サカマストン(北尾 C)

・南さつま市坊津町坊…サカマツ、サカマツドン(北尾 C)

・枕崎市…サカマス、サカマイ(内田 1949)、サカマツ(北尾 C)

島嶼部については、次のように屋久島で三つ星のグループ、種子島、トカラ列島悪石島で杓のグループが記録されている。

(1) 屋久島

・熊毛郡上屋久町永田(現 屋久島町)…ミツボシホイドン(北尾 C)

・熊毛郡屋久町栗生(くりお)(現 屋久島町)…ミツボシ(北尾 C)

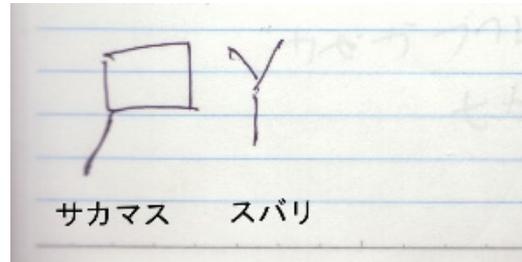
(2) 種子島

・西之表市西之表…マスボシ(北尾 AC)

・住吉浜之町…サカマス (北尾 C)

●西之表市住吉浜之町のサカマス(大正14年生まれ)

「マスの形したやつ。星ある。反対にひっくり返した形。マスの形の星あった…」



住吉の話者(大正14年生まれ)の図

最初は、柵の形をした星の名前をなかなか思い出すことができなかったが、昔の漁業の話聞くうちに、「サカマス言った」と記憶をたどることができた。

(3) 悪石島

・鹿児島郡十島村悪石島…サマス星(早川 1977)、サカマス(下野 1994)

3. 北極星(こぐま座 α 星)

屋久島・種子島以北においては、子+方のグループは記録されていない。北+数のグループ、数のみのグループ、北の星のグループに属する星名が比較的広く記録されている。

・阿久根市黒之浜…キタノホシ(北尾C)、

・南さつま市坊津町坊…ヒツボシ(内田1949)、キタノヒツボシ(北尾C)

・肝属郡南大隅町佐多…キタノヒツボシ(北尾C)

(1) 屋久島

・熊毛郡上屋久町永田…キタノイッセイ、キタノヒツボシ(北尾C)

「鹿児島行ったりするには、キタノイッセイ相手に。ここからな、鹿児島、キタノイッセイ見ていく。キタノイッセイで書いて、キタノヒツボシ。必ず北にある」

(2) 種子島

・西之表市西之表…ミョウケンサマ(北尾AC)

(3) 悪石島

・十島村悪石島…ネノホーボシ(早川 1977)

・鹿児島郡十島村悪石島…ネノホウ星(子の方星)(下野 1994)

(4) 宝島

・鹿児島郡十島村宝島…キタボシ(北尾AC)

4 北斗七星

(1) 種子島

・西之表市西之表…シソウボシ(北尾AC)

(2) 宝島

・鹿児島郡十島村宝島…セツ星(北尾AC)

5 宵の明星

(1) 種子島

・西之表市西之表…ヨウボシ、エイボシ(北尾AC)

(2) 悪石島

・鹿児島郡十島村悪石島…エノ明星(早川 1977)

6 明けの明星

(1) 種子島

・西之表市西之表…アカボシサマ、夜明けの明星様(北尾AC)

草切節の節に明けの明星が登場する。

「主は夜明けの明星様よ。心がけねば見りやならぬ」

(あなたは夜明けの金星のようなもので、朝早くから(暗いうちから)仕事にお出かけになさる。つとめて早く起きないとお目にかかることができないよ)

(2) 宝島

・鹿児島郡十島村宝島…夜あけの明星(北尾AC)

IV 南西諸島全域における星名伝承の全体的特徴・傾向

1 スマル、スバルの南限と宮古島における古語「スマル」の存在

スバルのグループの星名の南限は、南西諸島の吐噶喇(トカラ)列島にある。奄美群島の最北端に位置する奄美大島・喜界島においてはスバルのグループの星名は分布しない。

しかしながら、宮古島には、基層文化のなかの「すまる」に通ずる記述が残っている。『宮古島旧記並史歌集解』に掲載されている「金志川金盛があやご」に「ゆばらかぎ、すまりよ」とある。この「すまり」が日本の古語の「すまる」である。現在も宮古島では「すまる」を束ねる意に使われているとある。

ところが、プレアデス星団の星名としては「すまる」は使われておらず、ンミブス(群れ星)が使われている。このことは、八重山諸島の報告の項でも記したが、古事記に登場する古代の玉飾り「美須麻流之珠(みすまるのたま)」を星を意味していたと安易に断定してはいけないことを示唆している。

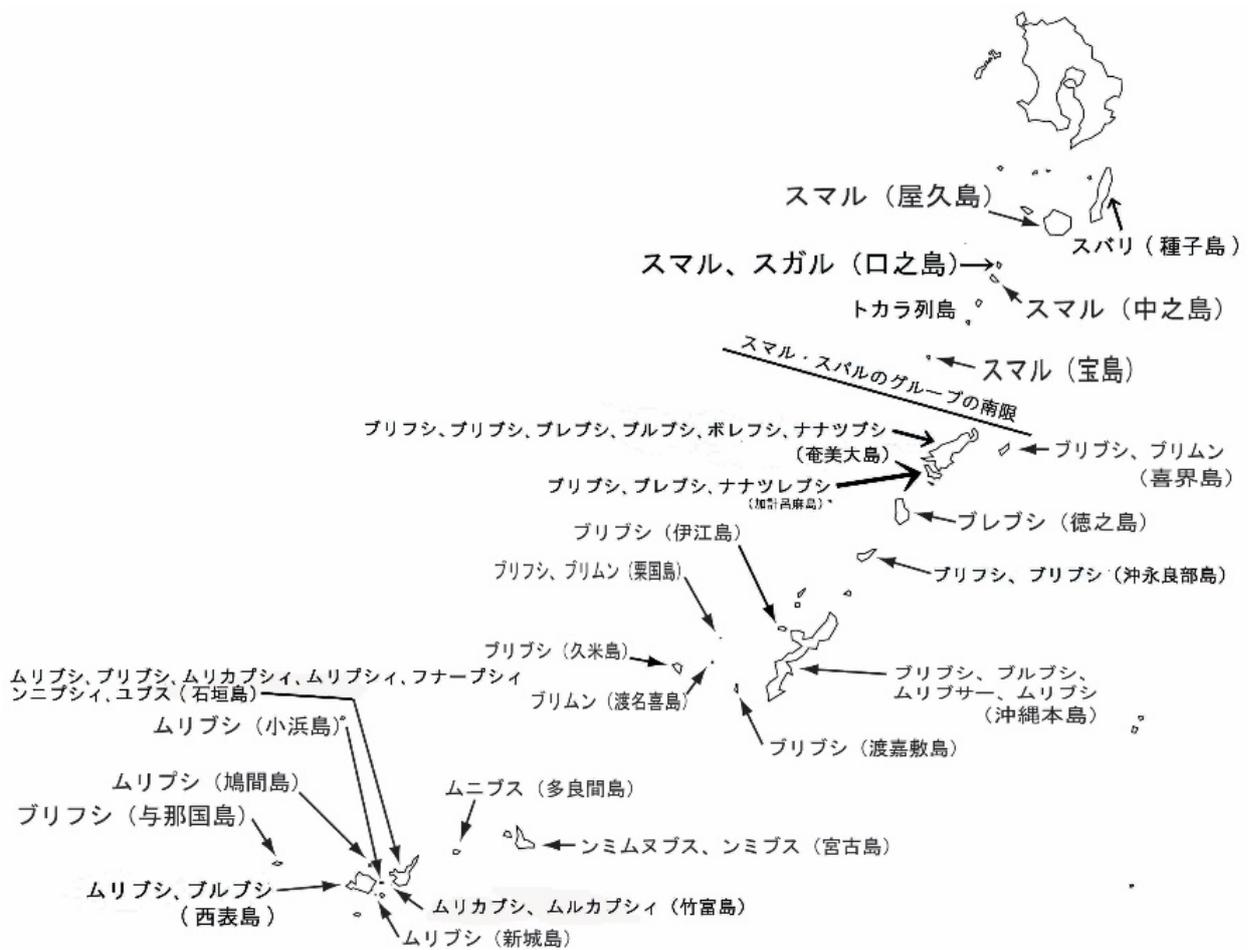
2 星名にフシ、ブシ、ブス等星をつけて呼ぶ奄美群島以南と単にスバル、スマルと星をつけないトカラ列島以北

トカラ列島以北においては。スバルボシ、スマルボシ、ムヅラボシと言わずに、スバル、スマル、ムヅラ、そして、変化して、スマリ、スパイ、ヒバリ、シバリ・・・と多くの場合は星をつけずに呼んだ。仮につけたとしても、星ではなく、スマルさん、鹿児島では、すばるどん、すばっどんというように、「さん」「どん」等の親しみをこめた接尾辞である。

ところが、奄美群島以南には、ブリブシ、ブリフシというように、フシ、ブシを加えた。生活のなかでのコミュニケーションは、漁業であり、農業であり、できる限り短いほうがよい。例えば、魚の名前は2文字、タイ、サバ、ブリ等…。木も、スギ、マツ、カシ等…。星も、スマル、スバル、マスというように2文字、3文字と短いほうがコミュニケーションに好都合である。なぜ、沖縄では、ブシ、フシを加えたのであろうか。イラブチャー、グルクンというように魚の名前が長いのは関係があるのか？

3 星名の多様性が見られないこと

八重山諸島と同様、南西諸島の奄美大島・喜界島以南において、群れ星が変化したものが分布する。例外は、奄美大島のナナツブシのみである。即ち、南西諸島の奄美大島・喜界島以南には、不思議なことにプレアデス星団の名前の多様性がない。東北地方のオクサ、モグサ、東日本のムヅラ、伊豆諸島神津島のジャンジャララボシ等、多様性があるのと大きく異なる。(北尾 2018)



V 沖縄本島・奄美群島を含む南西諸島全域の天文民俗・天文考古学の調査研究を発展させ、構造を明らかにするための議論

(1) 南西諸島に分布する群れ星がプレアデス星団を意味しないケースについての実態調査

群れ星はプレアデス星団を意味すると思われがちである。しかし、特定の星ではなくたくさんある星を意味するケースが一定数あることが、現地調査によって明らかになってきた。現地調査によってデータ数を増やして分析を進めていきたい。

(2) 星名伝承だけでなく、信仰、祭り、俚謡、伝説を含めて調査研究を実施

現地調査、アンケート調査によって、南西諸島の星名伝承を記録してきた。それらの記録をさらに推進し、星を認知し、形成された星名伝承の多様性を空間軸、時間軸の両方から立体的にとらえていくことにより、天文民俗、天文考古学のなかでの星名伝承を意味付けていきたい。具体的には、身体表

現(古謡、シニグ、綱引き等)、信仰、星が落ちた伝説、気象予知についての調査研究へと発展させ、次のような調査研究を推進し、最終的な研究の集大成を行ないたい。また、糸満漁師による広範囲な行動、伝播にも注目していきたい。

① シニグ、綱引き、俚謡

シニグ、綱引き等に星が歌われている。星名だけでなく、星を歌うということがどのような意味を持っていたか、現地調査、文献調査を推進していく。

② 信仰

信仰の対象になっている事例として、石垣島川平のユブスオンの調査を実施しているが、沖縄本島地域のオリオン座三つ星等が信仰の対象となっている事例についての現地調査、文献調査を推進していく。

③ 星が落ちた伝説

沖縄本島に分布している星が落ちた伝説について、現地調査、文献調査を推進していく。

④ 気象予知

星アギ等の気象予知について、現地調査、文献調査を推進していく。

⑤ 糸満漁師による伝播

隠岐、対馬等でイカ釣りの役星の伝播した可能性について、現地調査、文献調査を推進していく。

おわりに

星名の調査からはじまったが、そこには古語が沖縄で残っていること、星が暮らしの様々な場面でも語られ歌われていたことが明らかになってきた。まずは、アンケート調査及び現地フィールド調査において、星名伝承を語ってくれた話者のひとりひとりに、心から感謝から申し上げたい。また、沖縄本島の調査において調査にご協力をいただいた田端研二氏、友利健氏、福里美奈子氏、宮地竹史氏、尾久土正己氏、麓誘市郎氏に紙面を借りてお礼を申し上げます。

引用文献

- 野尻 1973——野尻抱影『日本星名辞典』東京堂出版、1973
内田 1949——内田武志『日本星座方言資料』日本常民文化研究所、1949
岩倉 1940——岩倉市郎『沖永良部島昔話』民間傳承の會、1940
岩倉 1941——岩倉市郎『喜界島方言集』中央公論社、1941
下野 1994——下野敏見『トカラ列島民俗誌』第一書房、1994
早川 1977——早川孝太郎「悪石島見聞記」『民族学研究3』国書刊行会、1977
住田 1930——住田正一『海事資料叢書 第一二巻』巖松堂書店、1930
桑原 1963——桑原昭二『星の和名伝説集 —瀬戸内はりまの星—』六月社、1963
長田 1977——長田須磨・須山名保子編『奄美方言分類辞典 上巻』笠間書院、1977
下嶋 1980——下嶋哲朗『沖縄・聞き書きの旅』刊々堂出版社、1980
松山 1984——徳之島町の松山光秀氏から 1984 年に受けた情報提供
北尾 C—北尾による調査
北尾 AC—北尾が 1980 年代に実施したアンケート調査
北尾 2001—北尾浩一『星と生きる 天文民俗学の試み』ウインかもがわ(発売 かもがわ出版)、2001
北尾 2018—北尾浩一『日本の星名事典』原書房、2018